



2022年10月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年3月4日

上場会社名 株式会社カナモト 上場取引所 東 札
 コード番号 9678 URL <https://www.kanamoto.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金本 哲男
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経理部長 (氏名) 廣瀬 俊 TEL 011(209)1600
 四半期報告書提出予定日 2022年3月16日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年10月期第1四半期の連結業績（2021年11月1日～2022年1月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | |
|----------------|--------|-----|-------|-------|-------|-------|----------------------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2022年10月期第1四半期 | 46,730 | — | 3,311 | △16.2 | 3,509 | △16.0 | 2,072 | △8.5 |
| 2021年10月期第1四半期 | 47,660 | 4.9 | 3,953 | △7.3 | 4,177 | △4.3 | 2,266 | △10.7 |

(注) 包括利益 2022年10月期第1四半期 2,636百万円 (△19.7%) 2021年10月期第1四半期 3,281百万円 (8.4%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|----------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2022年10月期第1四半期 | 55.04 | — |
| 2021年10月期第1四半期 | 59.95 | — |

(注) 1. 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年10月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。このため、売上高については対前年同四半期増減率は記載しておりません。

2. 前連結会計年度において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2021年10月期第1四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|----------------|---------|---------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2022年10月期第1四半期 | 300,153 | 135,052 | 42.3 |
| 2021年10月期 | 303,754 | 134,917 | 41.8 |

(参考) 自己資本 2022年10月期第1四半期 126,897百万円 2021年10月期 126,956百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年10月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2021年10月期 | — | 25.00 | — | 45.00 | 70.00 |
| 2022年10月期 | — | — | — | — | — |
| 2022年10月期（予想） | — | 35.00 | — | 40.00 | 75.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

3. 2022年10月期の連結業績予想（2021年11月1日～2022年10月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|-----------|---------|---|--------|-----|--------|------|-----------------|-----|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期（累計） | 95,500 | — | 8,200 | 1.7 | 8,300 | △3.8 | 5,100 | 3.1 | 135.42 |
| 通期 | 191,100 | — | 15,600 | 6.7 | 15,800 | 2.7 | 9,700 | 8.9 | 257.56 |

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 当連結会計年度の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。このため、売上高については対前期及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（注）詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 2022年10月期1Q | 38,742,241株 | 2021年10月期 | 38,742,241株 |
| ② 期末自己株式数 | 2022年10月期1Q | 1,255,165株 | 2021年10月期 | 924,846株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 2022年10月期1Q | 37,660,982株 | 2021年10月期1Q | 37,803,099株 |

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|---|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 3 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| (四半期連結損益計算書) | |
| (第1四半期連結累計期間) | 6 |
| (四半期連結包括利益計算書) | |
| (第1四半期連結累計期間) | 7 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (会計方針の変更) | 8 |
| (追加情報) | 9 |
| (セグメント情報) | 9 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、徐々に回復に向かっておりましたが、新たな変異株による感染拡大や世界的な半導体の供給不足等による下振れリスクの高まりが懸念されるなど、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが関連する建設業界におきましては、公共投資は引き続き堅調に推移し、民間設備投資についても持ち直しの動きが見られているものの、資材価格の高騰や慢性的な建設技能労働者不足等も深刻化しており、依然として留意が必要な状況が続いております。

このような状況のなか、当社グループでは、中期経営計画「Creative 60」（2020～2024年度）の実現に向け、国内営業基盤の拡充、海外展開、内部オペレーションの最適化の3つの重点施策の推進に努めております。また、将来の確かな収益と安定した経営基盤の構築に向け、実需に応じた機動的な投資戦略に加え、レンタル用資産の適正配置と効率的稼働を目的とする体制強化を図るなど、持続的発展と企業価値の向上に尽力しております。

当第1四半期連結累計期間における当社グループの業績につきましては、売上高は467億30百万円となりました。利益面につきましては、将来を見据えた人財投資による販管費の増加もあり、営業利益は33億11百万円（前年同期比16.2%減）、経常利益は35億9百万円（同16.0%減）、また、親会社株主に帰属する四半期純利益は20億72百万円（同8.5%減）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。詳細については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご参照下さい。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<建設関連>

主力事業である建設関連におきましては、国土強靱化対策をはじめとする公共投資は堅調に推移しているものの、本格的な建設機械のレンタル需要の回復には至らない状況で推移いたしました。

また、当社グループでは、社会資本の維持補修分野や脱炭素社会の実現に向けて需要増加が見込まれている再生可能エネルギー分野への対応力強化に努めつつ、デジタル変革の加速に向けた業務提携や建設現場の省力化・安全性の向上に寄与する建設DXを推進いたしました。

中古建機販売につきましては、期初計画どおりレンタル用資産の運用期間の延長を進めていることから、売上高は前年同期比40.0%減となりました。

以上の結果、建設関連事業の売上高は426億36百万円、営業利益は29億1百万円（前年同期比18.3%減）となりました。

<その他>

その他の事業につきましては、鉄鋼関連、情報関連、福祉関連ともに堅調に推移したことから、売上高は40億94百万円、営業利益は2億87百万円（前年同期比1.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

第1四半期連結会計期間末の総資産は、3,001億53百万円となり、前連結会計年度末から36億1百万円の減少となりました。これは主に「レンタル用資産」が33億60百万円増加した一方で、「現金及び預金」が42億88百万円、「受取手形、売掛金及び契約資産」は前連結会計年度末における「受取手形及び売掛金」と比較し31億58百万円それぞれ減少したことによるものであります。

負債合計は1,651億円となり、前連結会計年度末から37億36百万円の減少となりました。これは主に「短期借入金」が21億20百万円増加した一方で、「支払手形及び買掛金」が35億32百万円、「未払法人税等」が18億48百万円それぞれ減少したことによるものであります。

純資産合計は1,350億52百万円となり、前連結会計年度末から1億35百万円の増加となりました。これは主に「親会社株主に帰属する四半期純利益」が20億72百万円の計上及び「為替換算調整勘定」が3億68百万円増加した一方で、「剰余金の配当」によって17億1百万円、「自己株式」の取得により7億78百万円とそれぞれ減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年12月10日に「2021年10月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」で開示しました業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年10月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2022年1月31日) |
|----------------|--------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 56,093 | 51,804 |
| 受取手形及び売掛金 | 39,305 | — |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | — | 36,147 |
| 電子記録債権 | 7,319 | 7,936 |
| 商品及び製品 | 1,666 | 1,925 |
| 未成工事支出金 | 82 | — |
| 原材料及び貯蔵品 | 1,375 | 1,489 |
| 建設機材 | 18,055 | 17,474 |
| その他 | 3,123 | 3,635 |
| 貸倒引当金 | △269 | △292 |
| 流動資産合計 | 126,751 | 120,121 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| レンタル用資産 | 262,239 | 271,453 |
| 減価償却累計額 | △164,193 | △170,047 |
| レンタル用資産(純額) | 98,046 | 101,406 |
| 建物及び構築物 | 42,680 | 42,707 |
| 減価償却累計額 | △24,656 | △25,017 |
| 建物及び構築物(純額) | 18,024 | 17,690 |
| 機械装置及び運搬具 | 9,764 | 9,798 |
| 減価償却累計額 | △8,141 | △8,208 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 1,623 | 1,589 |
| 土地 | 37,684 | 37,660 |
| その他 | 2,899 | 3,509 |
| 減価償却累計額 | △2,143 | △2,106 |
| その他(純額) | 756 | 1,403 |
| 有形固定資産合計 | 156,135 | 159,750 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 4,111 | 4,034 |
| 顧客関連資産 | 1,276 | 1,301 |
| その他 | 1,516 | 1,558 |
| 無形固定資産合計 | 6,904 | 6,894 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 9,249 | 9,150 |
| 繰延税金資産 | 2,175 | 1,785 |
| その他 | 3,046 | 2,945 |
| 貸倒引当金 | △507 | △494 |
| 投資その他の資産合計 | 13,963 | 13,386 |
| 固定資産合計 | 177,003 | 180,032 |
| 資産合計 | 303,754 | 300,153 |

(単位：百万円)

| | 前連結会計年度 (2021年10月31日) | 当第1四半期連結会計期間 (2022年1月31日) |
|---------------|--------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 37,082 | 33,550 |
| 短期借入金 | 960 | 3,080 |
| 1年内償還予定の社債 | 24 | 12 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 13,055 | 13,255 |
| リース債務 | 1,269 | 1,349 |
| 未払法人税等 | 2,681 | 833 |
| 賞与引当金 | 1,548 | 698 |
| 未払金 | 24,545 | 24,638 |
| その他 | 6,063 | 4,641 |
| 流動負債合計 | 87,230 | 82,059 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 31,460 | 32,348 |
| リース債務 | 2,888 | 3,240 |
| 長期未払金 | 44,486 | 44,744 |
| 退職給付に係る負債 | 566 | 363 |
| 資産除去債務 | 588 | 589 |
| 繰延税金負債 | 1,501 | 1,619 |
| その他 | 115 | 136 |
| 固定負債合計 | 81,607 | 83,041 |
| 負債合計 | 168,837 | 165,100 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 17,829 | 17,829 |
| 資本剰余金 | 19,326 | 19,332 |
| 利益剰余金 | 89,048 | 89,419 |
| 自己株式 | △1,978 | △2,756 |
| 株主資本合計 | 124,226 | 123,825 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 2,249 | 2,193 |
| 繰延ヘッジ損益 | 0 | △0 |
| 為替換算調整勘定 | 541 | 909 |
| 退職給付に係る調整累計額 | △60 | △31 |
| その他の包括利益累計額合計 | 2,729 | 3,071 |
| 非支配株主持分 | 7,960 | 8,155 |
| 純資産合計 | 134,917 | 135,052 |
| 負債純資産合計 | 303,754 | 300,153 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年1月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年1月31日) |
|------------------|------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 売上高 | 47,660 | 46,730 |
| 売上原価 | 33,747 | 33,006 |
| 売上総利益 | 13,913 | 13,724 |
| 販売費及び一般管理費 | 9,959 | 10,412 |
| 営業利益 | 3,953 | 3,311 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 10 | 12 |
| 受取配当金 | 65 | 72 |
| 受取賃貸料 | 22 | 20 |
| 為替差益 | 57 | 18 |
| その他 | 145 | 156 |
| 営業外収益合計 | 301 | 280 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 25 | 25 |
| リース解約損 | 7 | 7 |
| その他 | 43 | 51 |
| 営業外費用合計 | 77 | 83 |
| 経常利益 | 4,177 | 3,509 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 1 | 5 |
| 関係会社株式売却益 | 20 | 6 |
| 退職給付制度改定益 | — | 31 |
| 特別利益合計 | 21 | 43 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除売却損 | 26 | 31 |
| 投資有価証券評価損 | 211 | 4 |
| 特別損失合計 | 238 | 36 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 3,960 | 3,515 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 942 | 735 |
| 法人税等調整額 | 459 | 495 |
| 法人税等合計 | 1,401 | 1,230 |
| 四半期純利益 | 2,559 | 2,284 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 292 | 211 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 2,266 | 2,072 |

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

| | 前第1四半期連結累計期間 (自 2020年11月1日 至 2021年1月31日) | 当第1四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年1月31日) |
|-----------------|------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| 四半期純利益 | 2,559 | 2,284 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 403 | △55 |
| 繰延ヘッジ損益 | 0 | △0 |
| 為替換算調整勘定 | 316 | 368 |
| 退職給付に係る調整額 | 2 | 39 |
| その他の包括利益合計 | 722 | 351 |
| 四半期包括利益 | 3,281 | 2,636 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 2,987 | 2,414 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 294 | 221 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、主な変更点は以下のとおりです。

(1) 収益認識時点の変更

建設関連事業及びその他事業に係る収益に関して、従来は顧客への建設機械のレンタルや販売商品においては出荷時に収益を認識しておりましたが、建設機械のレンタル及び販売商品に対する支配が顧客に移転する引き渡し時に収益を認識する方法に変更しております。

(2) 代理人取引に係る収益認識

一部の取引について、従来は、顧客から受け取る対価の総額を収益として認識していましたが、顧客への財又はサービスの提供における当社グループの役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は907百万円減少し、売上原価は907百万円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ0百万円減少しております。また、利益剰余金の当期首残高は0百万円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(退職給付制度の変更)

当社の連結子会社である㈱ニシケンは、2022年1月31日付で一部の対象者を除き退職一時金制度から確定拠出年金制度に移行しました。移行に伴う会計処理については、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第1号 2016年12月16日）及び「退職給付制度間の移行等の会計処理に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第2号 2007年2月7日）を適用いたしました。これにより、当第1四半期連結累計期間において、31百万円の特別利益を計上しております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間（自 2020年11月1日 至 2021年1月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

| | 報告セグメント | その他 (注) | 合計 |
|-------------------|---------|------------|--------|
| | 建設関連 | | |
| 売上高 | | | |
| 外部顧客への売上高 | 43,299 | 4,360 | 47,660 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | — | — | — |
| 計 | 43,299 | 4,360 | 47,660 |
| セグメント利益 | 3,553 | 283 | 3,836 |

(注) 1. その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、鉄鋼関連事業、情報関連事業、福祉関連事業及びその他の事業を含んでおります。

2. 前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映されております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-------|
| 報告セグメント計 | 3,553 |
| 「その他」の区分の利益 | 283 |
| その他の調整額 | 116 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 3,953 |

(注) 前第1四半期連結累計期間のセグメント情報は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映されております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2021年11月1日至2022年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

| | 報告セグメント | その他 (注) | 合計 |
|-------------------|---------|------------|--------|
| | 建設関連 | | |
| 売上高 | | | |
| レンタル契約 | 32,016 | 1,829 | 33,846 |
| 商品及び製品の販売 | 6,961 | 2,033 | 8,994 |
| その他 | 3,600 | 231 | 3,832 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 42,578 | 4,094 | 46,672 |
| その他の収益 | 57 | — | 57 |
| 外部顧客への売上高 | 42,636 | 4,094 | 46,730 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | — | — | — |
| 計 | 42,636 | 4,094 | 46,730 |
| セグメント利益 | 2,901 | 287 | 3,189 |

(注) その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、鉄鋼関連事業、情報関連事業、福祉関連事業及びその他の事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|-------|
| 報告セグメント計 | 2,901 |
| 「その他」の区分の利益 | 287 |
| その他の調整額 | 122 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 3,311 |

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(会計方針の変更)に記載のとおり、「収益認識会計基準」等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の建設関連事業の売上高は60百万円減少、その他事業の売上高は846百万円減少、セグメント利益は0百万円減少しております。